

中斎塾 東京フォーラム
平成 28 年度 第十回講話

平成 28 年 11 月 12 日
於 湯島聖堂

やっぱり司会者が変わると雰囲気が変わりますね。ミャンマーで谷口さんの元氣そうな姿を先ほど酒井さんに見せていただきました。元氣そうで良かったです。良い写真でございました。

最初にこれを回してしまおうと思っております。今日ご紹介する本が『神道とくひらめき』猪瀬理事長が言われた話と同じようなことが書いてあります。今日のテーマ「畏敬 そして原点を考える」は、紹介書籍と同じものでございます。それから一緒に、このコピーもお返しします。こちらは毎日新聞の昭和の歴史に関する物を写真で撮っております。

8 日にアメリカ大統領選で勝利した共和党のトランプさんが話題だからトランプさんから入りましょうかね。11 月になると酒井さんが来年の干支はどういうことですかと聞かれますので、そこから入ります。

今、酒井さんに見ていただいているコピーは 60 年前の状況です。それを、最初にちょっと申し上げます。

面白いと思うこと来年は丁酉（ひのと とり）です。学者の方々が調べて、いろいろ解説をしている丁酉の解説文章は面白くない。安岡正篤先生の解説がやはり一番面白い。

それをベースで申しますと、新旧の勢力が相対立をして、今年新しい勢力が生まれてどんどん進むという言い方を冒頭に申しましたが、来年はその動きが確立する。数年前からそういう表現をしていました。新しい勢力が確立して従来の既成概念を打ち壊していく時代に入る。この酉は酒瓶ですから、瓶の中にある物が発酵してどんどん熟してくる。時が熟すという考え方です。またこの酉という字を使っている時は革命が起きる年ともあります。

そこらへんに合わせて考えていただいて 60 年前はどうだったか。60 年前にアンケートを取りました。内容が「あなたは上流ですか中流ですか下流ですか」と。素直な聞き方ですが、それで 8 割以上の方が「私は中流です」と答えた。ちなみに来年同じ質問をしたらどうなりますかね。上流・中流・下流でいくと私は下流という人はとても増えるでしょう。なぜなら今、中流と言われる人はどんどん下流に移っています。それは今回のトランプさんでいけば 1%対 99%の戦いという表現になっていませんが、でもそういうことです。

私は来年からブログを中止すると決めました。そのブログを書いた中に、トランプさんが当選した日でしたから、こういう表現で読んだ方もおられると思いますが、アメリカでトランプさんが当選し、次期大統領になることとなりました。これは教育水準の高い富裕層、いわゆる金持ち層。この人達が既得権益を壊されないがために戦った。例えばクリントンさんが講演をすると1回数時間の講演で2000万から3000万の講演料を取る。そういう既得権益を守りたいという人達はクリントンさんを推す。トランプさんを推した人は貧困層といわれる人達。明日の生活に困り教育水準が低いということで、教育水準が高く金持ちの人達がクリントンさんを推し、教育水準が低く生活が苦しい、今の秩序を壊したいと思っている人達がトランプさんを推した。以前からアメリカでデモをする時は1%対99%の戦いと言われた。考えてみれば、投票だから票を入れる人が多いほうに民主主義は勝利というものを制するわけなので、トランプさんはそういう流れで推されて勝ったんだなと感じました。ちなみに教育水準が低いということは、どういうことかなと考えるとファーストフードが分かりやすいと思います。ファーストフードのような物を朝昼晩3ヶ月間食べ続けると肥満体になる。肥満になって頭のほうが悪くなるという実験の結果があります。そういうところから考えてみても、この二極分化なるものが来年は凄まじく拡大する。

トランプさんのことを考えつつ話しますと、60年前の昭和32年2月25日に岸内閣が成立をしています。石橋内閣は2ヶ月で退陣。総理大臣に就任した途端、病気になっていることが分かった。総理大臣になったら1日でも長くやりたいが、国会に出ることができない。総理大臣としての務めが果たせないと思ったので退陣を決めた。これは爽やかだという声が大衆の間で出た。その結果、岸さんが登場しました。時代を感じさせますが4月1日に売春防止法が施行されました。それから6月21日これが面白い。アメリカと日本で共同声明が出されました。内容は「日米新時代が来る」そういう共同声明を岸首相とアイゼンハワー大統領が揃って発表している。60年周期ですから、何となくトランプさんを思わせて面白い。

8月27日東海村に初めて原子力の火が灯った。今どうですか。次に9月20日、国産のロケット第一号が成功した。糸川英夫さん、東大教授ですね。国産ロケット第一号が成功して60年経った現在はどうでしょうか。10月1日、国連の非常任理事国に当選をした。

60年間で色々かわってきました。「今はどうですかね」ということを、来年は1月に考えられると良いでしょう。正月にでも、60年前の自分はどうだったかを考えられると良い。60年前の自分はどういう人生をおくっていたか、またどういう人生をおくりたいかを考えて、60年後の今どう自分はなっているかという事です。

紹介書籍

『神道とくひらめき』 葉室 頼和著 春秋社

今、まわっている『神道とくひらめき』という本が面白い。その本の中にアポトーシスの法則ということが書いてあります。アポトーシスの法則といわれても何だか分からなかった。読みますと医学のお話です。著者は春日大社の宮司です。

テーマ

<畏敬 そして原点を考える>

アポトーシスの法則はそのまま人類の話に繋がります。必要ない物と思われるものはこの地上から消滅すると書いてあります。例えば具合が悪くなって1ヶ月だか2ヶ月だか横になったまま寝ていると、足の細胞はもう私は不要になったと思って足を動かさず細胞は消滅していく。自分で不要になったと思う細胞は、どんどん元気がなくなって、最後は消滅するというのがアポトーシスの法則だそうです。

私は、何故キリンの首は人間と同じ数（7個）しかないのにキリンの首は伸びるのか、鳥はなぜ羽があり飛んでいるのか。それぞれの生き物が、自分の体を変えていけるのかと不思議だったのですが、アポトーシスの法則を知り、なるほどなと思いました。思い続けているとそうなる。それは地球上のありとあらゆる物の原理原則がそうになっているからだという事です。

人間がこの世に生まれた。その説明が天照大神の頃からの話で、結びの神が二柱生まれた。そうすると結びの神が生まれたということ、科学的な文章で同じことを表現している文章があったと本では紹介されていました。何だろうと思ったら湯川秀樹博士の中間子理論が、古事記の冒頭の文章と同じであるといいます。表現や言っている言葉は違うけれども同じことを言っている。

こういうことを繋ぎ合わせてみると、来年は自分が何故この世に生まれたのか。60年前、何を考えて現在まできているのか。そこから人類はなぜ生まれたのか。人類は何をしなくてはいけないのかと頭が回っていくというのかな、考えていくという状況ではないでしょうか。

そうするとトランプさんが言っていた科白をその通り実行したら、世界はもう、従来の既成秩序は破壊されてバラバラになるわけです。キリンの首がどんどん伸びるのも1~2年で伸びたわけではないでしょうし、何世代も少しずつ伸びてきて、とんでもない長さになった。

60年前に岸さんとアイゼンハワーが「日米新時代が来る」と言ったものは、トランプさんが既成秩序を壊すことによって、またそれぞれの国々と新しい時代が始まっていく。そういう状況だと思います。そうすると既成秩序を破壊する大きなものというのは、やはり

戦争かなという気がします。食べ物もなくなると前から申し上げていますが、来年は相当変わります。

たまたま何気なしに自分で書いた本『陽明学のすすめV 人間学講話 澁澤栄一』の前書きを見ました。そうしたら「平成27年に時代が変革する」というような内容が書いてありました。5年ぐらい前かな、自分で書いた記憶はあるけれども何年前だったかは覚えていなかった。他の本は文章の中で何年頃に何がありそうだなみたいなことは書いていますが、前書きに書いたものは、この本だけでした。トランプさんというたった一つのキーワードで、頭の中が拡大し広がっていったという事を今感じています。

それに合わせてではないですが『木内信胤語録』を復刊したい、と前から思っていたので具体的なスケジュールに乗せました。

顧問がプレジデント社を推していたので頼んでいましたが、最終的な返事は「印刷をして製本することはいたしますが、全部買い取ってください。本屋さんに並べることはお断りします。流通には乗せません。なぜならば売れないからです」と答えが返ってきました。失礼な返事だなと思いましたが、言い方を変えると単純明快です。売れないから若干でも損をすることは嫌ですという考えです。それで他の出版社から、来年のお正月に復刊をすることにしました。このあたりであれば東京駅の丸善とか八重洲ブックセンターの哲学コーナーにとお願いをしました。最近の哲学コーナーにあるのは安岡正篤先生と中村天風先生が並んで置いてあります。それが少しずつ変化して経済分野にも安岡先生の本が並ぶようになってきていますが、基本は哲学の部分です。

出版社の方と色々話をしていきますと「こういうタイトルだと売れるんですけど」と言うのですが、そのタイトルが問題でして木内顧問は嫌がるだろうなと思います。

内容は、三菱財閥の創始者である岩崎弥太郎の孫が、福沢諭吉の孫娘と結婚をして波乱万丈の人生をおくる。その人の書かれた貴重な本が復刊をしたという感じです。

それで出版社と相談して…その出版社は安岡先生が自分の出したい本を出すためにお弟子さんに「君、出版社を作れ」と言われた人が明德出版という出版社を作りました。その出版社を作った社長はのちに二松学舎大学の理事長になっています。今はその方は亡くなり奥様が社長をしています。

タイトルの表現を少し変えてもいいから、どうしても世の中へこの本を紹介したい、売りたい。そのためには知り合いだけでは駄目だから、一般読者も手に取るようなタイトルを付けないと売れない。明德出版社も労苦をして何か良いアイデアをとということです。来年は何かわくわくしてきています。

60年前を眺めると、これだけ色々な新しいことがあった。例えば売春防止法の施行。これも今の時代でいくと、先日『警察学論集』という本で売春防止法に関する新しい改正が出来ていると読みました。じつに堅苦しい論文だったのですが、ちょっとご紹介しましょ

うか。

今の警察官僚がどういうことを考えて売春防止法を是正するか。今の世の中は売春がごく当たり前に行われている嘆かわしい時代である。ついてはどのような場所で行われているか、部屋の広さがどれくらいか、照明ルクスはどれくらいか、近隣の住人達でこういう人達が住んでいる所は認めない。こういう人達が住んでいる所は認めると、細かく規制されていて、規制を潜り抜ければ大丈夫みたいな形の論文です。だから時代は本当に変わったと感ずます。売春防止法が施行され、それからどんどん法を潜り抜けるものが進んできて、60年経った今は、どんどん条文で形が変えられるようになっています。

時事評論

11月11日(金)の読売夕刊で「政権円滑移行で一致、トランプ氏・オバマ氏」トップで一面に大きく出ています。読売新聞11日の朝刊は「トランプ氏政権準備本格化」これもトップ。12日これもトランプ氏一面トップ。みんなトランプ氏が一面トップです。それで中身を見れば今まで選挙対策で言っていたことは選挙に当選するためのものだから、ちゃぶ台返しをしてこれからどうするか一生懸命考える。オバマさんも最悪無能の大統領であると言い続けていたものを「ミスタープレジデント」ですって。何なんだいこの態度の変え方はと思いますが、それがマスメディアに紹介されています。これだけ極端に変わるのかと思うぐらい極端に変わったなとトランプさんは見えます。その中で自分にとっては都合のいいものはどんどん変えていくでしょう。アメリカ国家に対して良いと思われる欺瞞が通用する。なおかつ自分の懐が豊かになる内容のものなら、どんどん変えていくはずだと私は感ずます。

それで見るとトランプさんは国にとって都合のいいもの、一番わかりやすいものがTPPですね。政権移行した当日にやると本人は言っていますが、いわゆる識者といわれる既成秩序を守っている人達はそんな馬鹿なこと出来るわけがない。現実に始めようとしたら色々と抵抗があるから出来ません、と日本の有識者は語るとかいつて今日の新聞に書いてあります。だからこれは見ものですね。アメリカは政権移行当日にTPPは本人が言った通りになるのかどうか。もしその通りになれば、既成秩序を壊しにかかる。ところが、ぐだらぐだら言って1日でも2日でも延ばしたら私利私欲を肥やそうと、自分にとって都合のいいものをどんどん始めるだろうというふうに私は感ずました。政権移行した日が見ものです。

そうなる自分直接どう影響があるかを考えてみると良いと思っておりますので、今年の暮れから来年早々は実に楽しい。

恒例の質問

- ・トランプさんが当選した以降でいきましょう。だいぶ感じが違いますから。ここ数日、良い日が続いている。
- ・ここ数日間、嘘はついていませんか。
これは多いですね。
- ・ここ数日、有難うと言い、有難うと言われた。
これも順調。
- ・昨夜寝る時に明日のこと明日以降のことをイメージして眠れた方。
お一人。
- ・ここ数日間、自分磨きをやっている。

論語の視点

先ほどの本『神道と<ひらめき>』の中に、古事記を読むには声を出して読むのが良いとあります。もともとは口伝ですから読むよりは詠じたほうが良い。言葉で伝わってきたものを文字にして表した。文字にして表したのは中国から伝わってきた漢字を使ったので、もともとの日本人の原点に戻るという考え方でいけば、暗唱するのが良いということだと感じます。論語も素読をしますが、素読がとても良い。素読をするにしても内容をいちいち教える必要はないと思います。論語を小さい子に教える時は、意味も分からずにただ暗唱させれば良いという仕方をしている。それが今日、見ていただいている『神道とひらめき』の人間が人間としてまっとうに生きていくためには原点に戻るべきだと。原点に戻るといって、もともと日本に文章として残ってきた古事記だとか日本書紀、これも声を出して読むと良いという。同じことを言っている。なるほどこれは合うなと思います。最近無理で言わないで体で感じなさいという科白が多い。ドイツで私がお話した時も、西行法師の「なにごとのおわしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる」を紹介して同じことを言ってきました。

論語は現代に置き換えて考える。先ほど比田井さんは「イメージをお持ちなさい」と言われた。とてもよい読み方で、なおかつリズムが入ってきたから、あのリズムは良いですね。私が中国語を習った時に、こんなリズムで読むのかと思ったのを思い出しました。ゆ

っくりとして抑揚つけたり雰囲気を入れたりすると、だいぶイメージが変わります。誰も聞いていない時に一人で部屋の中でやればいいです。人に聞かせる必要はない。そうすると気分がどんどん良くなって、その世界の雰囲気になって入ると現代に置き換えるというのはやりやすいかな。

<憲問第十四>

【二二】陳成子 簡公を弑す。孔子 沐浴して朝し、哀公に告げて曰く、陳恒 其の君を弑せり。請う之を討ぜんと。公曰く、夫の三子に告げよと。孔子曰く、吾 大夫の後に従うを以て、敢て告げずんばあらざるなり。君 夫の三子者に告げよと曰えりと。三子に之きつぐ。可かず。孔子曰く、吾 大夫の後に従うを以て、敢て告げずんばあらざるなりと。

孔子が 72 歳。陳恒は自分の主君である簡公を殺害した。それを聞いて孔子がこんなことが、この世の中におこなわれてよいものかと思い、身を清めて朝廷に行き哀公に「陳恒は主君を殺した。これはやはり征伐しなければいけないと思うので、ぜひ征伐をしていただきたい」と提言をした。返ってきた答えは「私はもう実権がないから実権を握っている三人に言いなさい」と。孔子は言わなければいけないと思って出掛けたけれど、誰もいうことをきかない。でも孔子はやはり正義はおこなわねばならないし、自分で思ったことは実行せねばならない。実行が肝心だということで行動をもって現せとここでだしています。

【二三】子路 君に事えんことを問う。子曰く、欺くこと勿かれ。而して之を犯せと。

子路が就活に成功しました。それでめでたく子路は採用されたのですが、ではどうやって仕えたら良いかと師匠に聞いたところ、孔子は嘘をついたらいけないと教えた。それだけですかと子路がきょとんとしていたから、主君がどうも変な方向にいつていると思ったら、それを「犯せと」諫めよ、諫言せよと言った。

今の時代はこうではないことが多すぎます。例えば現代でいくと安倍さんがまだまだ総理大臣を続けたい。そうしたら周りが諫めるどころではなく、迎合してオリンピックまでやりなさいよと皆で持ち上げる。何なんだいこれだと思います。それでトランプさんとの繋がりかたによって諫める人が出るのか、または迎合して進めるのか、それによって日本の進みぐあいが、次の 60 年に掛かってくると思う。

60 年経過して振りかえてみたら、60 年前のトランプさんと安倍さんの動きはこうだったから、それに合わせて日本、世界がどんどん変わっていく。60 年前のこれが今に繋がったなということになるんだと思います。先ほどのアポトーシスですが、医学の常識みたい

に書いてあります。今日は清水先生が見えていますので「この話は医学界の常識ですか」と聞きましたら、「医学の中では常識です」とお聞きしました。ひとつ物を覚えたなと思いました。時間がありましたら先生にアポトーシスをちょっと話してもらえると良いのですがね。

以上で後半終了です。有難うございました。